

製本のススメ

Vol. 45

天高く馬肥ゆる季節となりました。ダイエットの文字を横目で睨みつつも、豊かな味覚の前では食欲も抑えられませんね。美味しく食べて、楽しく運動！テキパキと働いて週末には温泉へでも行きたいものです。

今回は**製本とDTP**のお話

DTPで頁物を製作する時には**製本の知識が欠かせませんね**。今回からプリプレス立場で製本までを見て行きましょう。

企画が進み、原稿の量から頁数が決まれば台割りを作って、本全体の構成や流れなどをチェックしますね。**この台割りが本作りの基本設計図**となり、レイアウト・色数文章等を**総合的にチェック**しますね。製本での折易さや絵柄合わせ等を考えて4頁折8頁折・16頁折を一単位として、**これを1台と呼びます**。

頁数の都合では**ペラ(裏表で2頁)の場合もあります**。目次・扉や奥付・写真ページのように、実際の**印刷頁数には含まれない場合でも、台数には含めます**。

例えば8頁は5台でも、その他に頁を印刷しない「扉」や「写真」が一枚ずつあれば**全部で7台という数え方になります**『全部で5台です』と発注されながら実際には扉や折込みが入り台数が大幅に増えている事も有り、よく見れば台割りの横に、メモ書きのごとく『色上紙入る』や『別途写真』のように書き込まれているなど、これでは設計図とは言えませんね。台割りを基本に面付け・印刷・後加工へと流れていきますので何処の工程でも(特に社外へ工程が流れる場合)一目で解るような書式ならば、作業前の見落としや勘違い等の**トラブル回避へ大きな第一歩**となります。

さて印刷は台割りごとに行いますが、刷り本の出来上がりでページが正しく配列されていないと本には成りません。紙の上に**出来上がりを想定して頁の配置をしていく作業が面付け**です。ココで間違えると一歩も先に進みませんから、台割りごとに白紙(なるべく印刷する用紙と同じ用紙)で**折丁を作りましょう!**(折丁の大きさは実寸でなくても構いません)そこに各頁を書き込んで開いてみましょう。そうすれば**うっかりミスや勘違い**が発見できますね。しかし頁の面付け位置は、綴じの方法や文字の縦組・横組によっても変わってきますので、面付けを理解するには、それらを先に解っていないといけません。(この続きは、また来月…)



Teabreak

新米が出回り始めました。ふっくらと瑞々しいお米は食卓に欠かせませんね。では、いつから新米と呼べなくなるのでしょうか?米には「米穀年度」と言うものが有り、年の始まりは11月1日です。新・古の区切りはこれに準じていますので、今年収穫した米は来年10月31日をもって古米となります。

by (株) **井**関製本